

★今回は静脈系について勉強してみましょう。静脈系は心臓に戻る血管系です。
動脈系との違いを意識しながら学習していきます。→ 5月11日分（動脈系）も用意

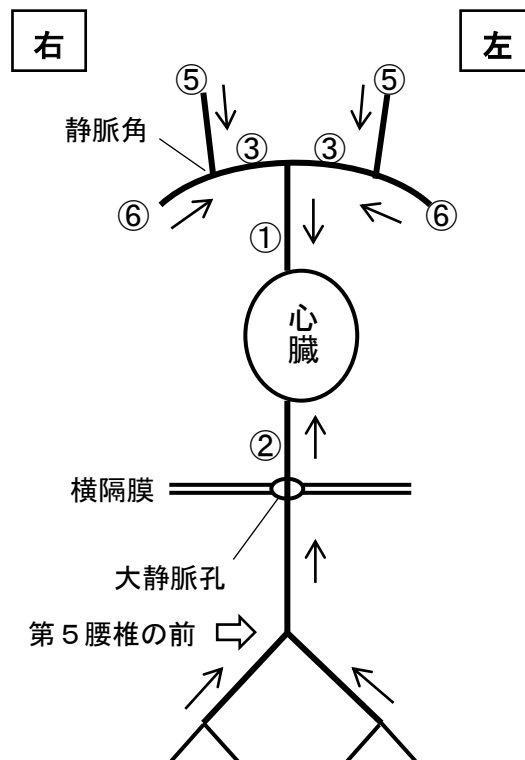
課題）教科書の該当ページをよく読んで（①～⑮）に入ることばを書きなさい。

プリントアウトできない場合は、A4サイズ用紙に番号とことばを書いて提出して下さい。

1. 大静脈 『解剖学』 p. 49

動脈の本幹である大動脈は1本であるが、
静脈の本幹である大静脈は、上半身の静脈を集める（①）と下半身の静脈を集める（②）の2本である。

そして、胸壁の肋間静脈を集める奇静脈系が独立して形成され上大静脈に注ぐ。



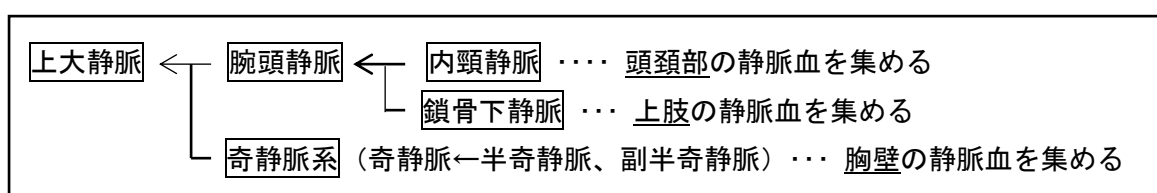
2. 上大静脈に注ぐ枝 『解剖学』 p. 49

上大静脈は、左右の（③）静脈（頭頸部と上肢の静脈）と（④）静脈（胸壁の静脈）を集めて構成され、上行大動脈の右側を下って右心房に入る。

左右の（③）静脈は、それぞれY字型に（⑤）静脈と（⑥）静脈が合流してできる。特に（⑤）静脈と（⑥）静脈の合流部を静脈角という。静脈角にはリンパ管も合流する。

奇静脈系は、別のルートであり、後胸壁の静脈を集めて脊柱の両側を縦に走る3本からなる（『解剖学』 p50 図 2-17 参照）。

（⑦）静脈は、脊柱の右側を右の肋間静脈を集めながら上行して上大静脈に注ぐ。
（⑧）静脈と（⑨）静脈は、脊柱の左側を走行して左の肋間静脈を集めて、右側を走る（⑦）静脈に合流する。



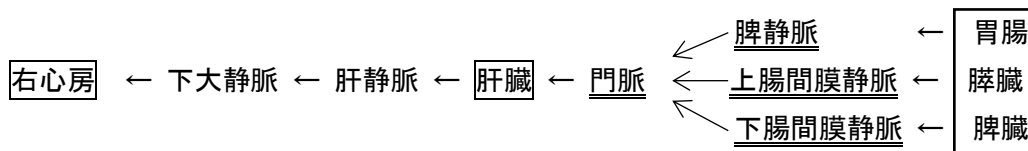
3. 下大静脈に注ぐ枝 『解剖学』 p. 49-50

下大静脈は、下半身の静脈の本幹である。第5腰椎の前で左右の総腸骨動脈が合流して集まり、腹大動脈の右側を上行する。

大静脈	枝		分 布
下大静脈	壁側枝	下横隔静脈	横隔膜下面
		<u>腰静脈</u>	腰部、腹壁
	臓側枝	♂右精巣静脈 ♀右卵巢静脈	右精巣 右卵巢
		<u>腎静脈</u>	腎臓
		<u>肝静脈</u>	肝臓（胃腸、脾臓、脾臓）
		右副腎静脈	右副腎

4. 門脈系 『解剖学』 p. 50

門脈は主に（⑩）静脈・（⑪）静脈・（⑫）静脈が合してできた特別な静脈である。胃腸や脾臓、脾臓から集められた静脈は門脈として（⑬）の中に導かれた後、肝静脈を経て下大静脈に注ぎ込む。



門脈の機能（肝機能に関与）

- ①胃腸から吸収された栄養素を肝臓に送って（⑭）や解毒する。
- ②脾臓から分泌されたホルモンを肝臓に運んで血糖を調節する。
- ④脾臓で破壊された赤血球中のヘモグロビンを肝臓に運んで（⑮）の材料にする。

★本日のポイントは、動脈との違いをおさえることです。ややこしいけど頑張りましょう！

- ・腕頭動脈は右側にしかなかったが、腕頭静脈は左右にある。
- ・総頸動脈はあったが、総頸静脈はない。
- ・奇静脈系
 - 動脈系）胸大動脈 ⇒（壁側枝）肋間動脈
 - 静脈系）肋間静脈 ⇒ 奇静脈系（奇静脈、半奇静脈、副半奇静脈） ⇒ 上行大静脈
- ・門脈系
 - 動脈系）腹大動脈 ⇒（臓側枝）腹腔動脈、上腸間膜動脈、下腸間膜動脈
 - 静脈系）脾静脈、上腸間膜静脈、下腸間膜静脈⇒ 門脈 ⇒ 肝臓 ⇒ 肝静脈 ⇒ 下大静脈